

走近日本丛书

鑑賞

(歷史篇)

日本 近現代文學

● 劉振生 / 編著

 吉林大學出版社

走·近·日·本·丛·书

鑑賞

日本

近

現代

文学

(歷史篇)

◎ 吉林大学出版社

● 劉振生

／ 編著

图书在版编目(CIP)数据

鉴赏日本近现代文学.历史篇/刘振生编著. —长春:
吉林大学出版社, 2008.8

(走近日本丛书)

ISBN 978-7-5601-3819-0

I. 鉴… II. 刘… III. ①文学史—日本—近代②文
学史—日本—现代 IV. I313

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 118695 号

书 名: 走近日本丛书

鉴赏日本近现代文学 历史篇

作 者: 刘振生 编著

责任编辑、责任校对: 邵宇彤

吉林大学出版社出版、发行

开本: 787×1092 毫米 1/16

印张: 16.25 字数: 283 千字

ISBN 978-7-5601-3819-0

封面设计: 张沭沉

吉林省金山印务有限公司 印刷

2008 年 7 月 第 1 版

2008 年 7 月 第 1 次印刷

定价: 30.00 元

版权所有 翻印必究

社址: 长春市明德路 421 号 邮编: 130021

发行部电话: 0431-88499826

网址: <http://www.jlup.com.cn>

E-mail: jlup@mail.jlu.edu.cn

前 書

日本近現代文学（歴史篇）は日本古代、中世、近世の文学に対して言うものである。時間区画には1852年ペリー来航・1868年明治維新を始点とし、1964年東京オリンピック・1989年昭和期の暮れを終点とした前後凡そ120年ほどの時期を指す。年号順から言えば、明治期（1868～1912）、大正期（1912～1926）、昭和期（1926～1989）という流れである。本書はこの年号順にて編集したものである。

日本近現代文学は萌芽、成長、開花、実りという移り変わりを考えてみれば、この120年ほどの日本社会における政治、経済、文化などの激動に深くかかわったかと言えよう。その文学のジャンルをおおざっぱに分けてみれば、小説・評論、詩歌・散文、劇・映画というようなものになる。本書ではこの分類にて、各ジャンルを詳しく紹介しており、ジャンルごとに、さらに主な流派、そして代表的作家・作品・文芸誌・文学団体などを紹介している。また、代表的作家の画像、有名な作品の画像、主な雑誌の画像、文学団体の史料及びその粹なども多く取り入れている。とりわけ、本書の後ろに「近現代文芸用語解説」「近現代文学と文体」「有名な作品の冒頭」「近現代文学流派沿革表」「近現代文学ジャンル対照表」「近現代文学の演習ノート」などを附録している点は、学習者にとってとても便利である。

本書は原則において現代日本語仮名遣いで書いたのであるが、近世的、古典風の文体の場合、作品の原風景を再現・保留するために、そのまま変えずに引用した。また、紀元・年においてはただその中の一

種を使用したし、内容によって、表記には日本暦、新暦をそれぞれ使用した場合もある。便宜のために、次の対照表を参照しよう。

明治元年	大正元年	昭和元年	平成元年
1868 年	1912 年	1926 年	1989 年

本書は主に四年制大学日本語科三年生、或いは日本語専門学校の上級生に向けて編集したものであるが、日本語がある程度に達した、人文社会科学に携わっている、一般の社会人にも完全に利用出来る。

また、編集において、日本側谷山茂ら『新修国語総覧』（京都書房）、全国高等学校国語教育研究連合会『明説日本文学史』（尚文出版）、真下三郎ら『新編日本文学史』（第一学習社）、中国側王長新『日本文学史』（外語教学与研究出版社）、葉渭渠『二十世紀日本文学史』（青島出版社）などを多く参考して併せて敬意・謝意を表したい。

目 次

前書	1
一、近現代文学における背景—市民社会の時代	1
(一) 明治期資本主義の発展と国家主義	1
(二) 大正期デモクラシーと昭和期軍国主義	2
二、近現代文学における主潮—小説・評論の世界	6
(一) 明治前期—近現代文学の萌芽と成長	6
(二) 明治後期と大正前期—近現代文学の開花	17
(三) 大正後期と昭和前期—近現代文学の展開	39
(四) 戦後・昭和後期—多様化の道を開いた文学	54
三、近現代文学における珠玉—詩歌の世界	74
(一) 近現代詩	74
(二) 近現代短歌	91
(三) 近現代俳句	99
四、近現代文学における爛漫—劇文学の世界	107
(一) 演劇改良運動	107
(二) 大正期の劇界	109
(三) 昭和期の演劇	109
五、近現代文学における外国からの影響	112
(一) 外国からの影響	112
(二) 外国の文学者と作品	124
六、附録	167

（一）近現代文芸用語解説	167
（二）おもな雑誌一覧表	186
（三）近現代文学と文体	190
（四）有名な作品の冒頭	200
（五）近現代文学流派沿革表	208
（六）近現代文学ジャンル対照表（1868～1997）	214
（七）近現代文学の演習ノート（ジャンル・総合）	231
後書	254

一、近現代文学における背景—市民社会の時代

(一) 明治期資本主義の発展と国家主義

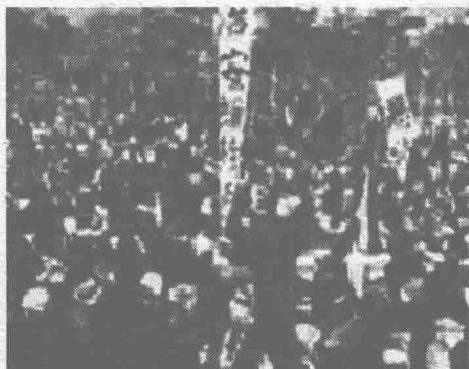
慶応3年10月(1867年11月)将軍徳川慶喜の大政奉還から、同年12月明治天皇の王政復古宣言、翌4年江戸幕府の倒壊を経て、明治新政権成立に至る一連の統一国家形成への政治改革過程を「明治維新」という。幕藩体制崩壊後の明治政府は、身分制度の廃止・廃藩置県・新学制の発布・太陽暦の採用など、新体制の確立を急いだ。そして長い鎖国政策による立ち遅れを取り戻すために「文明開化」「富国強兵」「殖産興業」をモットーとして、急速な国力の充実を図った。その結果資本主義産業は目覚し



日清戦争絵報

い発展を遂げるに至った。また、日清戦争(1894~95)日露戦争(1904~05)の勝利もあり、日本は国際的にも確固とした地位を築くこととなった。しかしこのような物質面の近代化に対し、精神面の近代化は立ち遅れることとなった。それは次第に専制化した明治政府が市民の台頭を抑え、天皇中心の国家主義を鼓吹し、封建道德の温存に努めたからである。そんな社会では個人主義的な思想さえ危険視された。そのため明治期の知識人たちは近代的な自我の目覚めと社会の軌轢に苦悩せざるを得なかった。

（二）大正期デモクラシーと昭和期軍国主義



大正期のデモクラシー

大正期に入ると、第一次世界大戦による経済的繁栄を背景に、デモクラシーが発達し、政党内閣の樹立、普通選挙法の公布が行われた。一方では労働者・農民などの生活が圧迫され、労働運動が台頭してくるようになった。

第一次大戦後の不況や関東大震災により、昭和期に入ると、金融恐慌が始まり、社会不安が深刻化

する。政治面ではファッショ的な軍国主義化が進み、アジア侵略戦争から太平洋戦争へと突入していく。戦争は敗北に終わり、天皇の人間宣言や戦争放棄を掲げた新憲法の制定（1. 主権は国民にある；2. 基本的人権を尊重する；3. 永久に戦争を止め、戦力は持たない）、教育制度の改革など、政府は民主国家を目指す国作りに着手した。太平洋戦争で破壊的な打撃を受けた日本経済は、その後、朝鮮戦争を契機に立ち直りを見せ、積極的な財政・金融政策に支えられて経済大国と呼ばれる工業国に成長したが、現在政治大国の列に入ろうとするために、その歪みを是正する平成期にきている。

●留意事項

◇明治天皇（1852～1912） 第122代の天皇。1867～1912在位。名は睦仁。孝明天皇の第二皇子。生母は中山慶子。慶応3年1月9日死去。同年12月天皇の名により王政復古の太号令を出し、4年『五箇条誓文』を宣布。江戸を東京と改めて遷都。その政治下に憲法発布・議会召集・教育勅語発布など万般の新制が定められ、また台湾出兵・日清戦争・日露戦争・韓国合併などにより、日本の対外膨張



明治天皇

を遂げた。

◇幕藩体制 近世日本社会の仕組みを江戸幕府と藩という封建領主制のあり方からとらえた歴史学上の概念。小農民で構成される村を、最高の領主となった幕府と、幕府から領地を与えられて軍役に服する大名とが支配し、小農民から主として米年貢を徴収することで成り立っている封建社会の体制を言う。

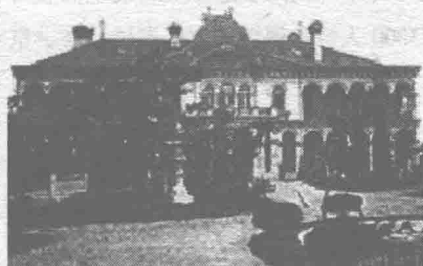
◇身分制度の廃止 江戸時代に「士・農・工・商」の階級観念がある。なお、この下に「穢多」「非人」もある。大名・公卿の号を「華族」と、武士を「士族」と、農民、労働者、商人、僧侶を「平民」と改

する。さうにいわゆる解放令を出して、「穢多」「非人」も平民とした。

◇廃藩置県 1888年全国の260余の藩（例えば薩摩・長州・土佐藩・肥後藩）を3府（東京府・京都府・大阪府）42県に化し、中央集権の仕組みは出来る。

◇学制の廃止 1872年に旧学制（塾）を廃止、同時に欧米の学校制度を参考とし、全国の大学・中学・小学に分け、1879年教育令（教育に関する政府の権限を大幅に地方に譲る）の制定より廃止する。1890年「教育勅語」を公布、「忠君愛国」を唱える。

◇文明開化 社会風習の変革（武士の辮髪を散髪に・西洋料理及び服装・鉄道建設など）；大学の設置（1877年4月東京大学成立、法・理・文・医四つの学院からなる）；留学生の派遣（1862年最初に留学生を派遣し、外国人の教師を招聘した）；西洋思想の輸入（福沢諭吉の『学問の勸め』—人は人の上に人を作らず、人の下に人を作らずと云えり）；新聞出版事業の発展（1870年



鹿鳴館

『横浜毎日新聞』を出版)。しかし、農村には西洋文化はなかなか入らなかった。

◇富国強兵 強兵の土台になったのは1873年から行われた徴兵令である。これによって、藩士の軍隊は廃止され、20歳に達した男子はみな兵役の義務を負うことになった。同時に政府は外国から機械や技術を取り入れて、兵器工場の外、製糸・紡績などの模範工場を建て、また、幕府の鉱山を政府の経営に移し、外国の

技師を雇って設備を整えた。このようにして近代産業を興すことを「殖産興業」という。

◇小村寿太郎（1855～1911）外務大臣。特命全権大使。（ポーツマス条約により日本の韓国における利益の確認；ロシアの満州撤兵；長春・旅順間の鉄道譲渡など）



小村寿太郎

◇日清戦争 1894～95年日本と清国との間に行われた戦争。朝鮮の甲午農民戦争に清国が出兵したのに対し、日本も居留民保護などを名目に出兵、94年7月豊島海戦となり、同年8月1日開戦、日本は平壤（ピョンヨン）黄海・大連などで勝利し、翌95年条約を締結した。清国は軍費二億両

（テール）を賠償し、遼東半島・台湾などを割譲し、蘇州などを交易市場とする。

◇日露戦争 1904～05年日本が帝政ロシアと中国東北・朝鮮の制覇を争った戦争。1904年2月国交断絶以来、同年8月以降の旅順攻囲、05年奉天大会戦、同年5月の日本海戦などで日本勝利を経て、同年9月アメリカの斡旋により、ポーツマス（アメリカ造船所）条約において講和。

◇関東大震災 1923年9月1日午前11時58分に発生した、関東地震（マグニチュード7・9）の災害。関東地方の一府六県の被害は、死者91000人、行方不明13000人、負傷者52000人に及び、京浜地帯は壊滅的打撃を受けた。また震災の混



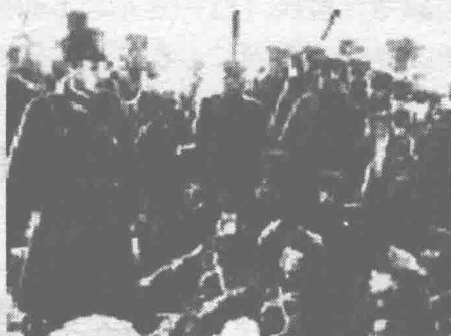
関東大震災

乱に際し、朝鮮人虐殺事件・亀戸事件（留学生の王希天殺害）・甘粕事件（社会主義者の大杉栄一家殺害）が発生。

◇政党内閣 立憲政体のもとで主に首相が政党の首班で、閣僚の全部または大多数を政党员で組織し、且つ指導勢力が政党にある内閣。

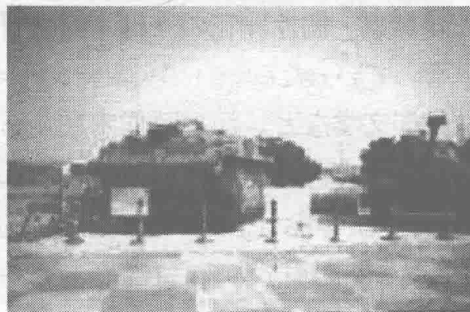
◇満州事変 1931年9月18日、奉天（今の瀋陽）北方の柳条湖の鉄道爆破事件を契機とする日本の中国東北侵略戦争。15年の戦争の第一段階。翌32年には「満州国」を樹立。華北分離工作を経て、中国侵略戦争へ発展。

◇二・二六事件 1936年2月26日、陸軍の皇道派青年将校らが国家改造・統制派打倒を目指し、約1500名の部隊を率いて首相官邸などを襲撃したクーデター事件。内大臣斎藤実・大蔵大臣高橋是清・教育総監渡辺錠太郎を殺害、東京駒町区永田町一帯を占拠、翌日戒厳令公布。29日無血で鎮定、事件後肅軍の名の下に軍部の政治支配力は著しく強化された。



二・二六事件の軍人

◇太平洋戦争 第二次世界大戦のうち、おもとして太平洋方面における日本とアメリカ・イギリス・オランダ等の連合国軍との戦争。15年戦争の第三段階で、中国戦線をも含む。中国侵略戦争の長期化と日本の南方進出が連合国との摩擦を深め、種々外交交渉が続けられたが、1941年12月8日、日本のハワイ真珠湾攻撃によって、開戦。戦争初期、日本軍は優勢であったが、42年半ば頃から連合軍が反攻に転じ、サイパン、硫黄島、沖縄本島等において日本軍は致命的打撃を受け、本土空襲、原子爆弾投下、ソ連軍参戦に及び、45年8月14日連合国のポツダム宣言を受諾、9月2日無条件降伏文書に調印。戦争中日本では大東亜戦争と公称。



南北朝鮮の対峙

◇朝鮮戦争 大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国とが第二次大戦後の米・ソの対立を背景として、1950年6月衝突し、それぞれマッカーサーの率いたアメリカ軍を主体とする国連軍と彭徳懐の率いた中国人民志願（義勇）軍の支援のもとに国際紛争にまで発展した戦争。53年7月休戦。

二、近現代文学における主潮—小説・評論の世界

（一）明治前期—近現代文学の萌芽と成長

1. 新しい文学運動



従軍期の鷗外

明治の新政府は、文明開化の掛け声のもと、欧米諸国を模倣した近代化を急速に進め、明治20年代の初めには、帝国憲法発布、帝国議会開設、と続き、新しい国家体制がようやく整備された。明治維新の約20年間は近世から近代への過渡期といえ、文学の世界でも啓蒙的なものが目立ち、文学的価値のあるものはあまり見られない。しかし、封建制を脱し、新時代を希求する気運の中で人間尊重・個性開花の芽は、特に青年たちの間に実に育っていった。

明治期の初期は戯作文学など、江戸時代末期からの流れを組む作品しか見られなかった。しかし、明治20年代（1887～96）には西洋文学の翻訳作品（1878年川島忠之助が＜明治2～13フランスのジュール＝ベルヌの原作。80日間で世界一周出来るかどうかの賭けた成功する話＞を訳し、その後1882年桜田百衛が『西洋血潮小風暴』、1889年森鷗外らが『面影』、1892年森鷗外が『即興詩人』＜デンマーク作家アンデルセンの小説＞を訳した）が紹介され、また、民権運動家による政治小説が流行した。こうした中で西洋詩を模範とする新体詩（『新体詩抄』である。旧来の短詩（短歌、俳句・俳諧など）を排し、英・仏の詩の翻訳と著者の試作を収め

た七五調文語定型詩で、西洋風の長詩ポエトリーだ)の運動が起こり、また、古い文学観を排して、写実主義を説き、二葉亭四迷・山田美妙は近代文学に欠かすことの出来ない「言文一致」の運動を起こした。

●留意事項

◇戯作文学 旧時代そのままの開化の世相に好奇の目を向けた文学創作、詳しくは洒落本や滑稽本など、近世後期からの娯楽的な通俗小説類を指し、例えば仮名垣魯文の小説「西洋道中膝栗毛」「胡瓜遣い」「安愚楽鍋」(明治4~5年式亭三馬の「浮世床」の形式を模して新風俗の牛鍋屋に出入りする人々の生態や話題を描いたもの)。



◇仮名垣魯文(1829~1894) 戯作者。

『安愚楽鍋』表紙

本名は野崎文蔵。東京の生まれ。少年のごろ丁稚奉公に出たが、そのころから山東京伝・式亭三馬・十返舎一九らの戯作・滑稽本を好んで読み、雑俳・狂歌をよくした。

◇「学問の勧め」(明治5~9)全17冊の評論。「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らずと云えり。」の有名な冒頭に始まり、人間の平等、学問の尊重、一身一国の独立、学者の覚悟などを、平明な文章で説き、合理性、実証性に支えられた実用的な学問を勧めた。発行部数75万冊ともいわれる、啓蒙期の代表的ベストセラー。

◇政治小説 明治10年代に自由民権運動に伴って発生した、政治目的を有する作品。時代小説風に自由民権運動を素材とするもの、革命的情熱を鼓吹するもの、運動の思うに任せぬ不満を文学に託するものなど、作品には矢野龍溪『経国美談』、東海散士『佳人の奇遇』などがある。自由民権運動の衰微に伴い、急速に姿を



板垣退助

消した。

◇自由民権運動 明治初年、藩閥専制政治に反対して起こった政治運動。明治7年1月、板垣退助らによる民選議院設立建白書に始まり、明治23年11月の国会開設でほぼ終わった。

◇写実主義 19世紀にフランスの作家バルザックやフローベールなどによって樹立された文学運動。主観を交えずに、現実をありのままに描写する立場で、19世紀後半に文学の中心となった。逍遙の写実主義は、従来の戯作文学に対抗して提唱されたため、理論的に不十分であったが、そのまま硯友社文学に受け継がれていった。

◇言文一致 書き言葉を出来るだけ話し言葉に近づけ、現代人の思想感情に適した近代的口語文体を創出しようとした運動、及びその確立した文体。幕末から明治の初めにかけて、西洋先進諸国の「言」「文」の一致している点に気づき、旧来の言文二途を廃し、現代語による言葉にしようとした動機に基づく。慶応年間から明治20年ごろにかけての啓蒙思潮・欧化改良熱に伴って、前島密・福沢諭吉・西周らが先駆的提唱をなし、20年ころ山田美妙『武蔵野』、二葉亭四迷『浮雲』、遅れて尾崎紅葉らが実作を試みた。

◆坪内逍遙（1859～1935） 坪内逍遙は文学理論書として『小説神髓』（明治18～19）を書き、小説は芸術であり、文学の中で優位を占めるものであるという位置づけを行った。更に小説は人情や世態を写すとの写実主義を唱え、近世の勸善懲惡から脱して人間の心理を描くことの重要性を説いた。その実践として『当世書生気質』（明治18～19）を書いたが、この小説は理論とは異なり、勸善懲惡的に展開し、前近代的な通俗的リアリズムから抜き出せずに終わった。また、逍遙の理論には、政治小説が内包していた小説の思想性までを否定してしまう欠点や、写実の本質を十分に把握していないなど未熟な点も見られた。



坪内逍遙

小説で最も重要なのは人情を描くことであり、生態風俗がその次で

ある。

人情とはどのようなものを言うか。人情とは人間の欲望であって、俗に言う百八の煩惱である。(中略)この人情の奥を抉って、賢人、君子は言うまでもなく、老若男女、善悪正邪の心中の内幕をほそぼそと漏らさずに描いて、人情をはっきりと表わすことが我々小説家の仕事である。

—『小説神髓』上巻—

◆二葉亭四迷(1864～1909) 逍遙の理念を一步進め、『小説総論』(明治19)によって、模写の必要性を提唱した。そして、そのためには勸善懲惡の小説を排して、写実主義(リアリズム)を重んじなければならないと説き、その実践として小説『浮雲』(明治20～22)を書いた。『浮雲』は未完に終わったが、言文一致の文体や、独立した自我を通して人間性の追求を試みている点、さらには、文明開化の日本を象徴する典



二葉亭四迷

型的な人物を配して、当時の社会の様相をとらえようとした点などから、近代文学の出発点ともいえる作品となっている。

○ 逍遙と四迷

項目 \ 作家	逍 遙	四 迷
生 年	安政六年(1895)	元治元年(1864)
影 響	英文学	露文学
文学理論	写実主義、勸善懲惡の否定、文学の独自性	写実主義の根拠を明示、模写重視、言文一致
主要作品	『小説神髓』『当世書生の気質』『細君』	『小説総論』『浮雲』『平凡』
翻 訳	『シェークスピア全集』	ツルゲーネフ『めぐり合い』

○ 言文一致

作 家	文 体	主要作品
二葉亭四迷	～だ調	『浮雲』（明治20年）
坪内逍遙	～です調	『武蔵野』（明治20年）
尾崎紅葉	～である調	『多情多恨』（明治29年）

● 留意事項

◇『小説神髓』（明治18～19）勸善懲惡主義を排して文学の独自性を説き、人情・世態の写実的描写を重視した。小説に市民権を与えた画期的論文として、後の自然主義文学にまで影響を与えた。

◇『当世書生気質』（明治18～19）江戸戯作的手法と西洋小説的写実との新旧両面を併せ持つ、近代小説への過渡的作品。

◇『にごりえ』（明治28）銘酒屋菊の井の私娼お力は、客の結城朝之助を愛しながらも、自分のために落ちぶれて、妻子まで捨てるに至った源七の刃にかかって死ぬ。一葉の人生への不安が投影された作品。

◇『一葉日記』明治20年（一葉15歳）から晩年まで、断続的に書かれた。客観的で綿密なものが見方が、文学的な価値を高めている。「塵のなか」「水の上日記」などの題名がついている。

◇『小説総論』（明治19）ロシアのペリンスキーの理論を手本にしたもので、「芸術は現象の中の本質（真理）を感性によって直接感得するものであり、芸術の一種である小説も、その真理を直接に表現し、具体的に伝えなければならない。そのための方法は模写（写実）以外にない。」として、写実を説く根拠を明確にした。

◇『浮雲』（明治20）年発表の長篇小説である。主人公内海文三は上京後、実利主義の叔母の元に下宿する。下級官吏になった文三はお勢に恋心を抱くが、誠実なだけの文三はお勢に馬鹿にされる。世渡り下手な文三は上司の信頼も得られず、失業してしまう。一方、世渡り上手な同僚本田昇は上役にも信頼され出世し、お勢も本田に



『浮雲』表紙